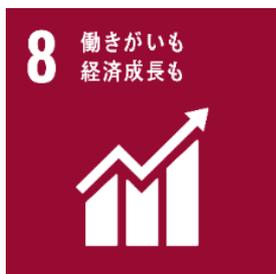


地域と学校の 連携・協働強化事業



徳島県教育委員会生涯学習課
学校・家庭・地域連携担当

学校を核とした地域力強化プラン

令和5年度予算額(案) 77億円
(前年度予算額) 74億円



背景・課題

- ▶ 少子高齢化、地域のつながりの希薄化等により、子供を取り巻く地域力が衰退している。また、学校における働き方改革への対応、いじめ・不登校、児童虐待の増大等、学校や家庭が抱える課題も複雑化・困難化しており、学校・家庭・地域それぞれだけの対応では限界が生じている。
- ▶ **学校のみならず、家庭や地域住民等が相互に連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を担うことが課題**となっている。
- ▶ 自治体が、それぞれの課題やニーズに応じた効果的な取組を実施できるよう、**複数の事業を組み合わせた総合的な支援を実施する。**

事業内容

- 学校・家庭・地域の連携・協働体制の構築
- 地域の多様な関係者の参画による地域の特色を生かした教育活動の充実

学校・家庭・地域が一体となって、子供を取り巻く課題を解決できる地域を目指す

- **地域全体で子供たちの成長を支える社会の実現**
- 学校を核とした地域活性化に寄与

事業概要： 下記①～⑥のメニューを組み合わせる自治体の取組を総合的に支援する補助事業

補助率： 国 1/3、都道府県 1/3、市町村 1/3
(都道府県等が直接実施する場合、都道府県等 2/3)

対象(交付先)： 都道府県・政令市・中核市(以下「都道府県等」)

件数・単価： 各メニューによって補助対象となる件数・単価は異なる

1 地域と学校の連携・協働体制構築事業

7,066百万円(6,859百万円)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する自治体の取組を支援。地域と学校の連携・協働による学校運営、地域住民が参画した学習支援・体験活動や働き方改革に資する取組など多様な活動を推進。

2

2 地域における家庭教育支援基盤構築事業

75百万円(75百万円)

家庭教育支援チームの組織化による保護者への学習機会や情報の提供に加え、個別の支援が必要な家庭に寄り添った相談対応の実施や、それに対応するためのチーム員等に対する研修の強化について支援。

3

3 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

338百万円(338百万円)

スクールガード・リーダー(防犯の知識を有する者)やスクールガード(学校安全ボランティア)の活用等により、地域と連携した学校安全の取組を推進し、地域ぐるみで子供の安全を見守る体制を整備。

4

4 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業

9百万円(10百万円)

就職やキャリアアップにおいて不利な立場にある高校中退者等を対象に、地域資源を活用しながら、高等学校卒業程度の学力を身に付けさせるための学習相談及び学習支援等を実施する自治体の取組を支援。

5

5 健全育成のための体験活動推進事業

99百万円(99百万円)

自然体験、農山漁村体験、文化芸術体験など宿泊を伴う様々な体験活動を通して、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むとともに、自己有用感を高め、自らの役割を意識させるなど一人一人のキャリア発達を促進。

6

6 地域を担う人材育成のためのキャリアプランニング推進事業

8百万円(8百万円)

キャリアプランニングスーパーバイザーを都道府県等に配置し、地元企業等と連携した職場体験やインターシップ及び地元への愛着を深めるキャリア教育を推進し、地元で就職し地域を担う人材を育成。

令和5年度 事業推進の方針について

文科省⇒地域と学校の連携・協働体制構築事業

徳島県⇒地域と学校の連携・協働強化事業

＜地域学校協働活動＞

- ①放課後子供教室推進事業
- ②地域ぐるみの学校支援事業
(地域学校協働本部・地域未来塾)
- ③週末等の教育支援体制構築事業

＜コミュニティ・スクール＞

コミュニティ・スクール
(学校運営協議会制度)
の導入

学校を核とした地域づくり

地域とともにある学校づくり

×

一体的推進

目標やビジョンの共有

地域と学校の連携・協働強化事業

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進

市町村【運営委員会】

☆コミュニティ・スクール運営の検討, 事業計画, 運営方法, 人材確保等の検討や事業の検証・評価等

☆既存の組織等での代替も可能

＜委員構成＞ 行政関係者・学校関係者・PTA関係者・社会教育関係者・学識経験者・コーディネーター等

学校

コミュニティ・スクール



学校運営協議会

学校運営・運営に必要な
支援に関する協議 等

連携・協働

学校支援活動

放課後子供教室

地域未来塾

家庭教育支援

郷土学習

地域課題解決学習

地域学校協働本部

本部の3つの要素

- ①コーディネート機能
- ②多様な活動
- ③継続的な活動

地域コーディネーター

地域学校協働活動推進員

PTA

老人会

学生

青年団

NPO

公民館

婦人会

企業

様々な地域学校協働活動

定義

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして、以下の様々な取組を組み合わせる実施する活動

学びによるまちづくり・ 地域課題解決型学習・郷土学習

- ◆地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- ◆「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- ◆地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸術学習 など



放課後子供教室

- ◆地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

- ◆中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

- ◆寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など



学校に対する多様な協力活動

- ◆登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供（土曜学習応援団）など



地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画

- ◆地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など





企業・団体等の強みを生かしたリアルな学びを学校でも地域でも

土曜学習応援団



【土曜学習応援団プログラムの例】



地球温暖化を考える燃料電池を使用した「発電実験教室」



災害に備える力を養う「防災教室」

文部科学省では、平成26年4月より子供の豊かな学びを支えるために、多様な企業・団体等に「土曜学習応援団」として賛同・登録いただき、土曜日ははじめとして、平日の授業や放課後等の教育活動において、実社会での経験や専門知識を活かした出前授業等の教育プログラムを提供していただいております。現在は900以上の企業・団体等が登録しています。

特徴

1 実社会に基づくプログラム!

- ✓学校のみでは学べない内容
- ✓本物に触れられる

2 講師はその道のプロ!

- ✓専門的・先端的な知識が豊富
- ✓学びが深まる

3 多様なプログラムから選べる!

- ✓選択肢が多い
- ✓多様な企業が登録
- ✓時間等は調整可能

4 費用を抑えたプログラム!

- ✓コストが気になる学校でも取り入れやすい

【土曜学習応援団の活用場面】 地域学校協働活動推進員が中心となり、学校や地域における活用を推進していきます

本校の特色ある教育をさらに充実させたい

地域学校協働活動推進員

学校のニーズに応じたプログラムがあります

【学校運営協議会の場面で活用】

5年生の授業で活用できるプログラムはありますか

地域学校協働活動推進員

学年、教科、単元で簡単に検索できます

【授業づくりの場面で活用】

放課後子供教室でも活用できますか

地域学校協働活動推進員

放課後、土曜、日曜、長期休業も可能です

【放課後の子供たちの学びで活用】

活用までの流れ (学校の授業等で実施する場合の例)

- 1 出前授業等をサイトで検索**
地域や教科、キーワードで絞り込むことができます。
- 2 企業等へEメールや電話で連絡**
ここで学年、教科、単元、ねらいを伝えておくと、以降の調整がスムーズです。
- 3 打ち合わせ**
授業は、企業等が計画したプログラムで実施することも可能です。
- 4 当日**
企業等が学校へ出向き、出前授業等を行います。

問い合わせ先

地域学校協働活動推進室
地域学校協働推進係
☎ 03-5253-4111(内線:3080)
✉ doyo@mext.go.jp

2.(3)⑤ 地域学校協働本部の整備

地域学校協働本部 の定義 (中教審答申より)

- 社会教育のフィールドにおいて、地域の人々や団体により「**緩やかなネットワーク**」を形成した任意性の高い**体制**。

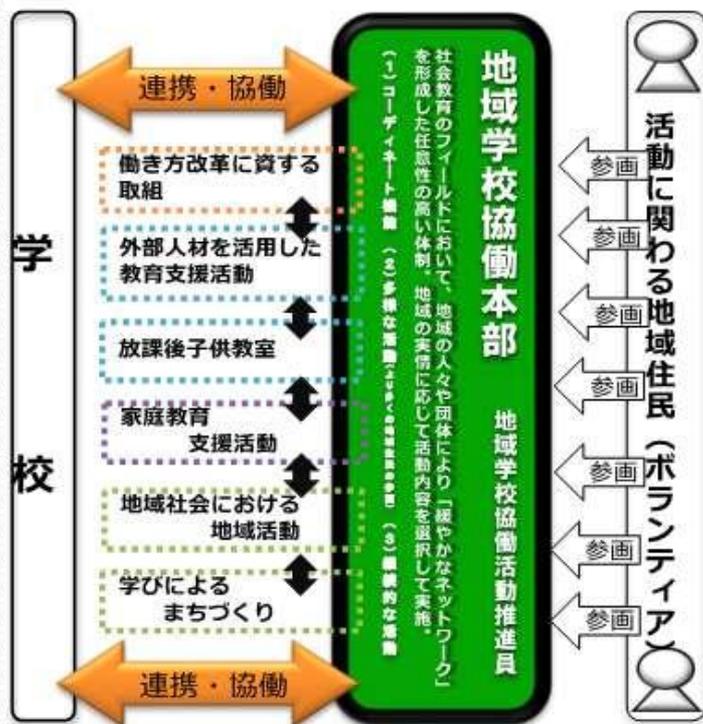
【地域学校協働本部の3つの要素】

- ①コーディネート機能
- ②多様な活動（より多くの地域住民の参画による多様な地域学校協働活動の実施）
- ③継続的な活動（地域学校協働活動の継続的・安定的実施）

体制（ネットワーク）なので、3要素が揃っていれば、必ずしも会議体や事務所を設けないといけないものではない

- 地域と学校が子供たちの育成の方針など目指すべき方向性を共有しつつ、取組を以下の方向へ発展させていく
 - 「支援」 → 「連携・協働」へ
 - 「個別の活動」 → 「総合化・ネットワーク化」

イメージ



なぜ地域学校協働本部を整備するのか？ ～3つの要素から～

①コーディネート機能

- 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター含む）を中心に、地域学校協働活動全体としての目標・ねらいが共有できる。
- 様々な分野に強みを持つ人々が集うことにより、コーディネーター個人を超えた、より広い地域人材の確保・ネットワークの構築が可能に。

②多様な活動

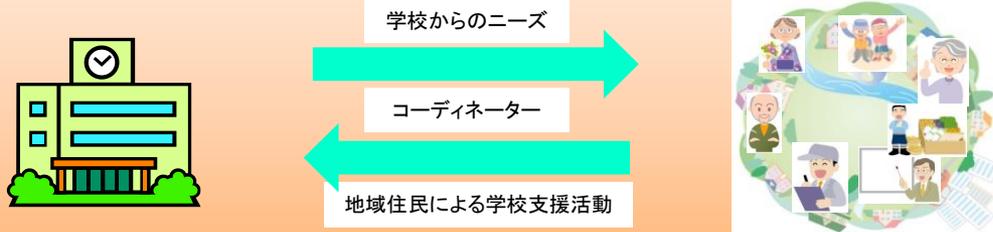
- 多様な人材・活動がつながることにより、興味関心や思いを同じくする仲間ができ、そこから新たな活動が生まれる。
- 実施する活動が多種多様なものになることにより、参加できる活動やメニューが広がるため、活動に参加できる子供や地域の方が増える。

③継続的な活動

- 関係する様々な人材が有するネットワークを活用できるため、コーディネーター個人の人脈に依存せず、継続的に活動することが可能に。
- 様々な活動・人材の情報を共有できるため、活動間での偏り（参加される地域の方の人数、開催場所、時間等）を調整し、安定的に活動が可能に。

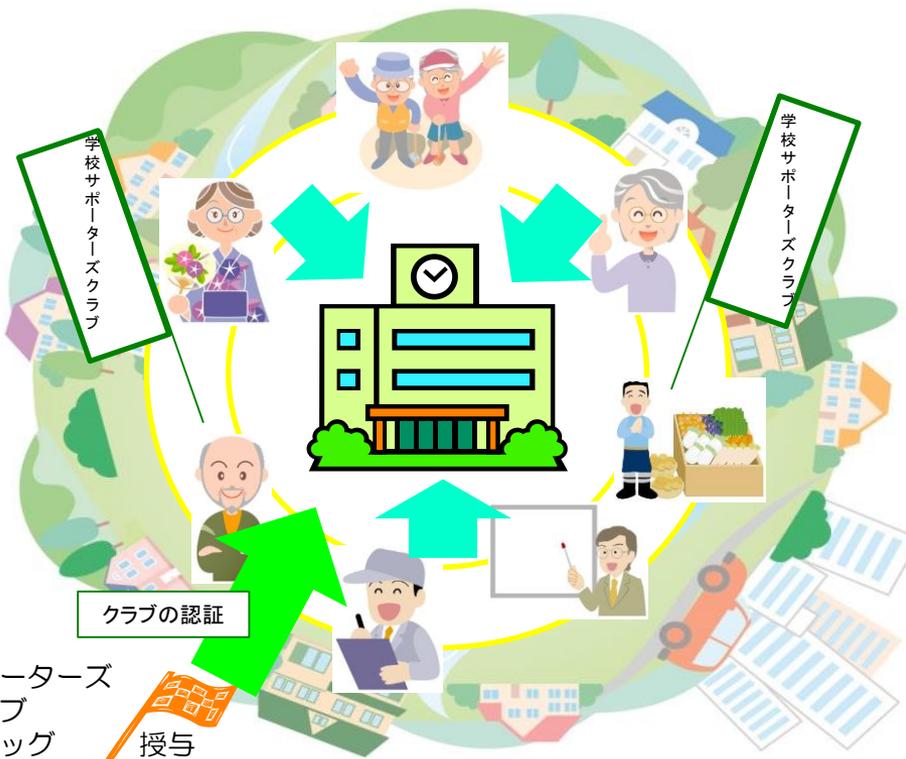
学校サポーターズクラブ制度創設事業

これまでの「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」へ



学校サポーターズクラブ

地域の自治会、婦人会、青年団、老人クラブなどにより、
学校応援の環をつくり、そこから学校応援の手を!



サポーターズクラブの認証により、より継続的な学校支援!

学校を軸に地域の絆を強め、地域の活性化へ!

県教育委員会



令和5年度

社会教育プラットフォーム創出事業

徳島県教育委員会生涯学習課
学校・家庭・地域連携担当

先着 20名
参加費 無料

申込多数の場合は、
調整する場合があります。

「社会教育人材」養成講習会

住みやすい地域づくり・仲間づくりのための「コミュニケーション力」や
「人とつながる力」が身に付きます。



板野町ボランティア団体「ぴーなっつ」

とくしま大人の語る場

～地域を明るくするためのアイデアを引き出すワークショップ～



参加者同士の新たな
交流も期待できます

地域活動に参加してみたいと思っている皆さん。
この講習会では、話し合いに参加する一人ひとりの良さに目を向け人づくり・地域づくり・つながりづくりのために仲間とともに考えることの楽しさを感じ、身近な場所を、少しでも変えようとする力を身につけていきます。

「Yeti&Ltb レンタサイクル徳島」大杉さん

→令和4年度実施事業

社会教育プラットフォーム創出事業

目的

地域における連携・ネットワークづくりをすすめるため、社会教育に関わる人材を育成するとともに、研修を通じた団体・個人のスキルアップや学びの深化、多様な主体との連携の機会を創出し、学びと活動をつなぐ循環の仕組み（社会教育プラットフォーム）の構築を支援する。

背景



地域社会の課題

- ・若者中心に人口が大幅減少
- ・高齢化の急速な進行
- ・将来、地域が消滅しかねない不安



「地方創生」実現のための社会教育の必要性

- ・地域住民の主体的な学び・参画
- ・住民の学びを促進する人材・リーダーの存在
- ・地域に関わる個人・団体のつながり



社会教育をとおした「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」

社会教育プラットフォーム創出事業

「社会教育人材」養成講習会

世代を問わず多様な分野で活動する団体や個人の学ぶ機会を創出し、社会教育のリーダーを育成します。

【内容】**新** 学校と地域をつなぐコーディネーターの育成

ワークショップの手法を体験的に学ぶ講習 など

「社会教育人材」養成講習会交流会

社会教育実践者のスキルアップ、新規性のある取組や持続可能な活動へのネットワークづくりをめざします。

- 【内容】
- ・ 県内における身近な好事例の報告、ワークショップ など
 - ・ 意見交換・情報交換の場の提供



ワークショップ体験



事例報告及び交流

対象

PTA, 元教員, 学生, 社会教育委員, 行政関係者, 公民館関係者, 社会教育主事, NPO・企業, 社会教育関係団体, 地域学校協働活動関係者 など